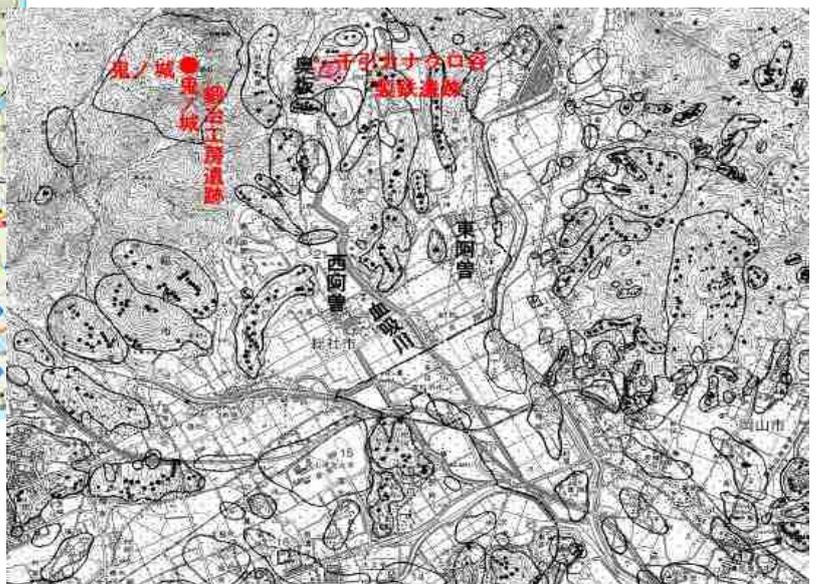
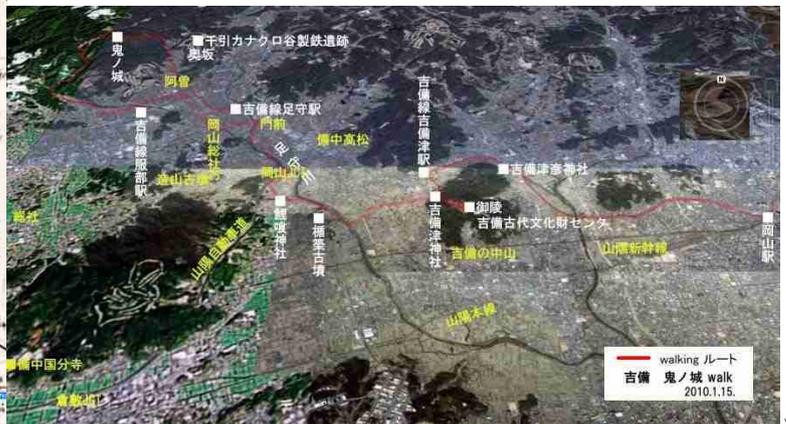


## 奥坂製鉄遺跡群 千引カナク口谷製鉄遺跡

「現在出土している日本最古後半の製鉄炉がある千引カナク口谷製鉄遺跡」



鬼ノ城 東門の上からみた奥坂 千引カナク口谷製鉄遺跡 (鬼ノ城 GC 内中央部の貯水池の下) 2010. 1. 15.



### 鬼ノ城の東山麓山裾に広がる製鉄遺跡群

〔右図は総社 阿曾周辺の遺跡地図〕

鬼ノ城直下の東山麓に広がる阿曾の郷は「真金吹く吉備」の古代吉備の大製鉄地帯の心臓部

その中心をなす「現在出土している日本最古 6世紀の製鉄炉がある千引カナク口谷製鉄遺跡」

是非一度足したためたかった古代の製鉄遺跡。何度か周辺を歩きましたが、鬼ノ城 GC の貯水池の下に眠っていると聞いただけで、正確な位置 どんな所に製鉄炉が合ったのか知りませんでした。今回 新たに発掘された7世紀の鍛冶工房跡のある鬼ノ城・東門の山上からその位置・地形を眺めることができました。

『千引カナク口谷製鉄遺跡』は、鬼ノ城の東山麓の幾つもの小さい谷間が続く奥坂の北に開ける小さな谷間に国内最古急の製

鉄炉が出土した製鉄遺跡(6世紀後半 - 7世紀初頭)で、炭焼き窯3基を含む製鉄炉4基の遺跡全体は、60㎡という当時としては大規模な構造を持つ。

この鬼ノ城直下の東山麓周辺ではこのほか、奥坂製鉄遺跡群と呼ばれるいくつもの古代製鉄遺跡が出土している。

古代「真金吹く吉備」と呼ばれた吉備の古代の大製鉄地帯の中心にある製鉄遺跡遺跡である。

遺跡はゴルフ場建設に伴う調査で出土したが、現在「鬼ノ城GC」の中にある貯水池の下20mのところに埋め戻されて眠っているという。

千引カナクロ谷製鉄遺跡を含め、この周辺で出土した数多くの製鉄遺跡については光永真一氏著 吉備考古ライブラリー・10 「たたら製鉄」に詳細整理され、掲載されている。

光永真一氏著 吉備考古ライブラリー・10 「たたら製鉄」から千引カナクロ谷遺跡の概要・製鉄炉について解説記述されている部分を抜き出すと次のとおりである。

千引カナクロ谷遺跡は北東方面に開く小さな谷の奥まった南斜面裾に2~4号の3基の製鉄炉が重複して存在し、対する北斜面を5メートル上がって1号製鉄炉、その上方に2基の「ヤツメウナギ」(炭焼き窯の表現)があり、谷の西奥にもう一基の「ヤツメウナギ」が位置している。炉の操業順は4号炉がもっとも古く2号炉→1号炉→3号炉と考えられ、操業の終了は7世紀初頭前と考えられた。

これまで知られていた7~8世紀代の炉跡と比べても一回り大きな地下構造に石を丁寧に使用する4号炉が国内最古級の製鉄炉と判明した。

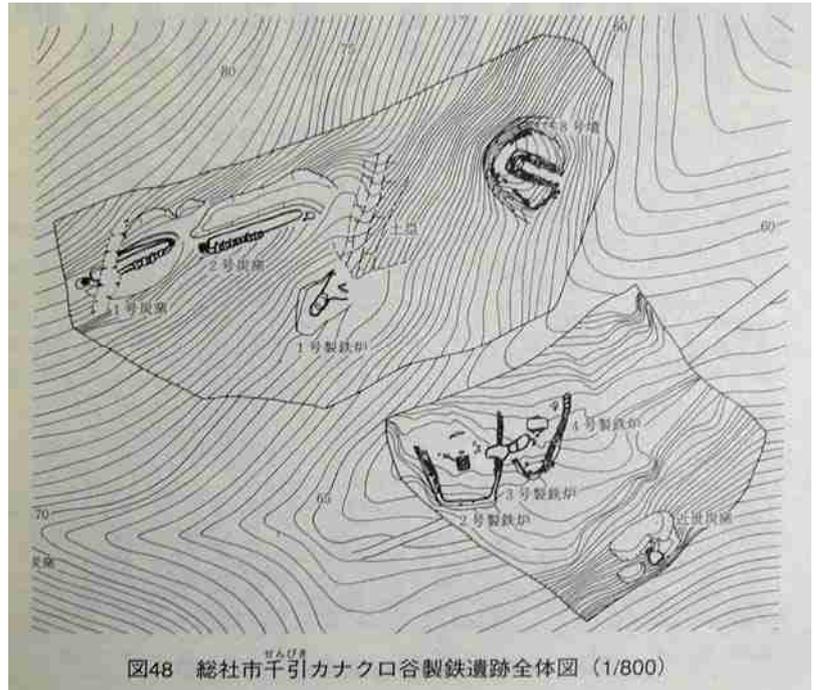


図48 総社市千引カナクロ谷製鉄遺跡全体図 (1/800)



総社市千引カナクロ谷製鉄遺跡 2~4号炉

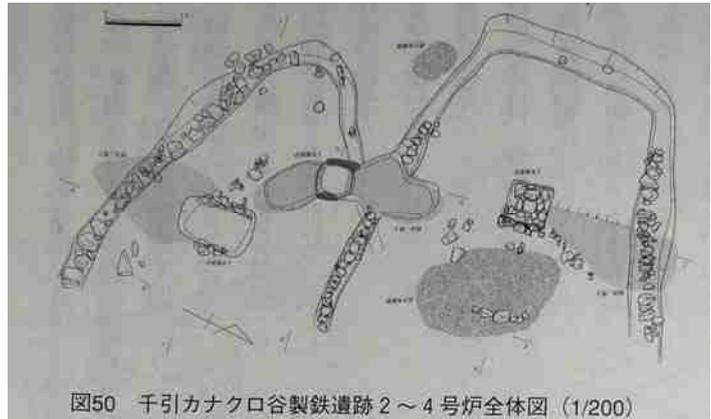
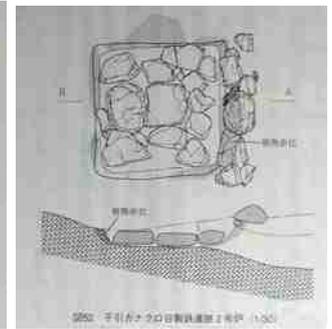
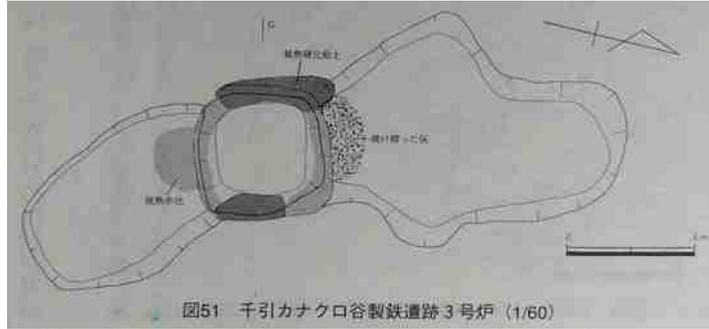
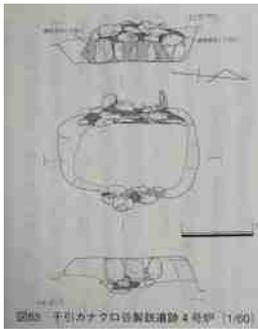


図50 千引カナクロ谷製鉄遺跡 2~4号炉全体図 (1/200)

千引かなくろ谷製鉄遺跡 左より 4→3→2号製鉄炉 光永真一 吉備考古ライブラリー・10 「たたら製鉄」より

国内最古級の4号製鉄炉は2号炉から7メートルほど離れて存在し、周りにU字1状に掘られた溝には暗渠状に石敷きが施されて、2号炉のそれと重なっている。地下構造となる土コウは205X135cmと大きく、深さ25~50cmを測る側壁のうちでも、長辺には粘土で目張りされた3段の石積み良好に残っていた。石積みは全体に熱影響を受けているが、より強い熱影響を示す2段目以上に補修が繰り返された跡がみられた。

2~4号炉一帯の作業面や排滓溜りからは鉄鉱石の小片が出土し、これが原料と考えられている。また2~4号炉一帯排滓溜りから須恵器が出土し、6世紀第Ⅲ四半期と判断された。(途中省略して整理抜粋させてもらった。)



千引カナクログ谷の製鉄炉 左より 4号 3号 2号製鉄炉 いずれも日本最古級の6世紀第三四半期の製鉄炉

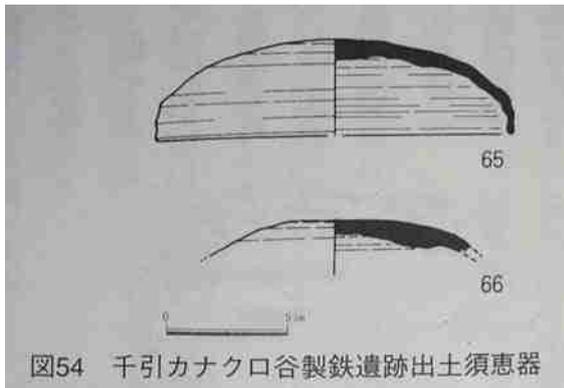


図54 千引カナクログ谷製鉄遺跡出土須恵器

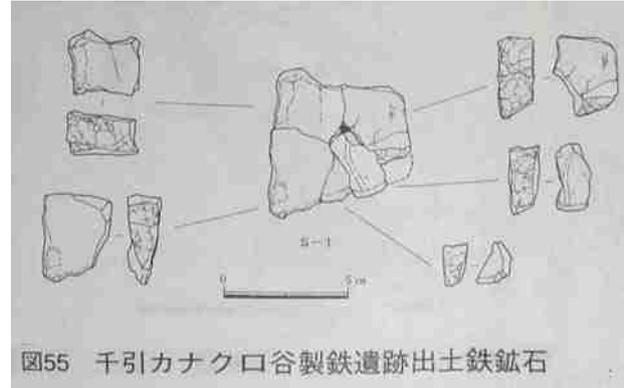
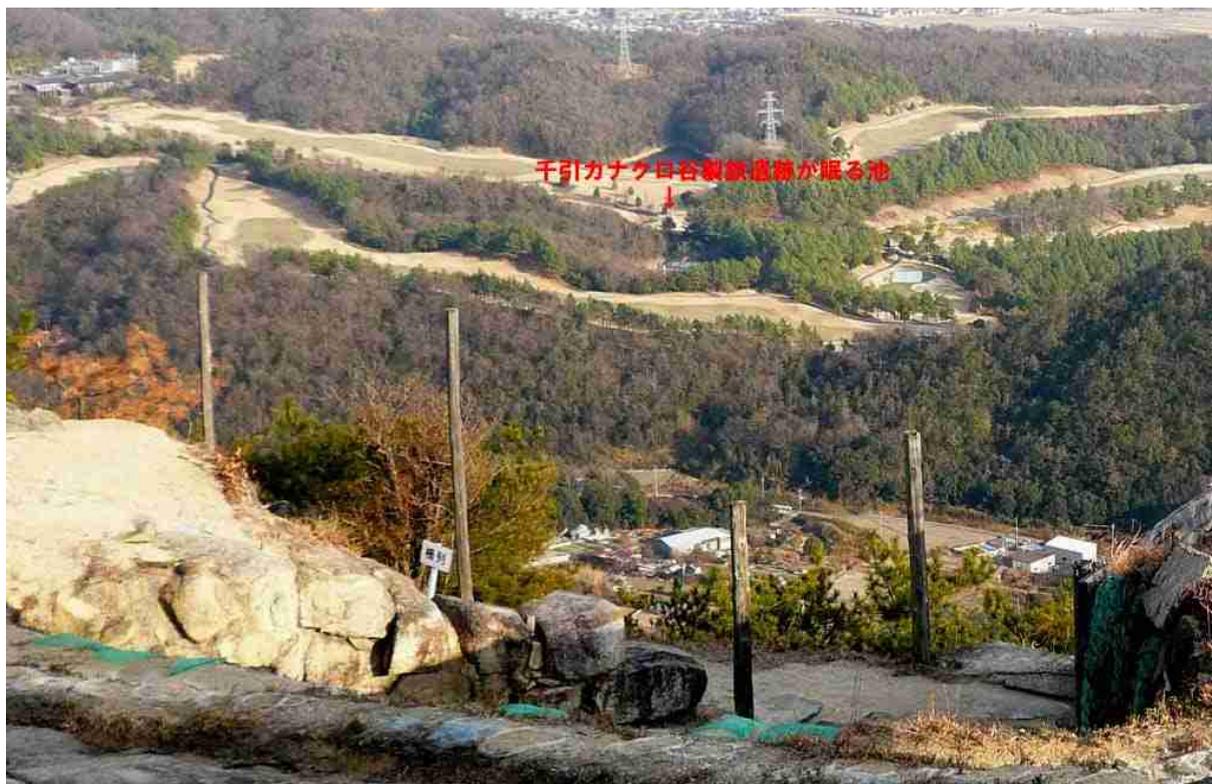


図55 千引カナクログ谷製鉄遺跡出土鉄鉱石

千引カナクログ谷製鉄遺跡より出土した須恵器と製鉄原料と見られる鉄鉱石片

ここまで 上記 光永真一著 吉備考古ライブラリー・10 「たたら製鉄」より 整理転記させていただきました。

この奥坂のすぐ東側にはが急峻な山肌を見せる鬼ノ城（鬼城山）がそびえている。この奥坂の製鉄遺跡群は鬼ノ城 GC 中にあるので、フリーに遺跡のある場所にはいけないが、この東阿曾・奥坂は鬼ノ城 東門の直下にあたり、この地域を鬼ノ城 東門から眼下に見下ろせる。また、急峻な崖道ではあるが、この東門と阿曾の郷との間には道がある。時代が少し下るが、7世紀 唐の侵攻に備えたこの山城が完成し、城の中でも武器の生産が行われた鍛冶工房が見つかったが、この阿曾・奥坂地区で生産された鉄と密接につながっていたと思われる。



鬼ノ城 東門 山上から見た東山麓 奥坂 千引カナクログ谷製鉄遺跡が眠るゴルフ

